

『紫白の猛き徴』

花園の舞台へ



主将

柴田 竜成

昨年度は秋田県予選の決勝において男鹿工業高校に勝利し、花園に出場することができました。全国大会では全国優勝を目指して、古豪の秋田工業から強豪への復活を取り戻すことを目標にしました。

新チームは、突出している選手がない分、一人ひとりが個々の課題に向き合い努力できるチームです。県内の大会では課題が残る試合内容であったものの優勝することができ、東北新人大会でも決勝で仙台育英に勝利し優勝することができました。続く三月に行われた全国選抜では、天理高校、大分東明高校に敗れて多くの課題を得ることができました。そして、今のこのチームは全国レベルのチームではないと実感しました。この大会を境にチーム全体の意識が変わり全国レベルのチームになるため練習に取り組みました。しかし、新型コロナウイルスの影響で思うように他県との交流や練習試合などもできず、試合の組立や試合に対する気持ちの持ち方など実戦での経験が足りないと感じています。特に今のこのチームの力量を計ることができないため不安がつきまとっています。そのような中でも全国との差を縮めて追い抜くために、練習の質を高め一人ひとりが集中し、細かな部分も丁寧にやり抜くことで格段にプレーの精度が向上しました。またウェイトトレーニング

グもコーチから教わり、チーム全体としても身体が一回り大きくなりレベルアップしたチームになったと感じています。

もう少して花園予選が始まります。限られた時間を大切に過ごしてより成長し、他を圧倒しての優勝を目指します。そして、今まで指導してくださった監督をはじめコーチやOBの方々、今まで支えてくれた保護者の皆さんや沢山の方々への感謝の気持ちを忘れずに取り組み、花園の全国大会で活躍します。応援よろしくお願い致します。

二年連続の花園へ



副主将

桜庭 侑大

昨年の花園では、ベスト十六という結果でした。個人としては、何もできずに終わったことがとても悔しさを残る試合でした。この悔しさをバネにして冬の体力作り、基礎練習をチーム全体で声を掛け合いながらやり切る事ができました。その結果、二月の東北新人大会の決勝戦で仙台育英に勝って優勝することができました。この試合では課題も見つかり、とても収穫のある大会でした。

今年も全国選抜大会や七人制大会など全国の強豪校と試合をする機会があり、全国での自分たちの立ち位置を再確認することができました。まだまだ修正すべき所もあり、今よりもレベルアップするために、日々の練習により一層力を入れてやっていきたいです。三年生は最後の花園となります。予選までの残り少ない日々の練習を大事にし、後悔の無いよう全力を尽くして一戦一戦戦います。この大会では感謝の気持ちを忘れずチーム一丸となって頑張りますので、応援どうぞよろしく

お願いします。

さらに高みへ



副主将

船木 悠希

昨年の花園大会では三回戦で大坂朝鮮高校に惜敗し、ベスト8以上に進出することができませんでした。

花園大会終了後に新チームになり、伊東真吾先生が監督として就任し、新たな気持ちでスタートすることになりました。

今年のチームはディフェンス力が良く、一人ひとりの魂のこもったプレーができると思います。今年のチームの目標も「タックルで勝つ」ということになりました。東北新人大会までは、沢山の方のサポートもあり、目標でもあるタックルで試合に競り勝つことができました。続く全国選抜大会では、天理高校に敗れ悔しさを感じる試合でした。この試合では、自分たちの課題と可能性を見つけ出したことが大きな収穫になりました。この大会を境にチーム全体の練習に取り組み姿勢が変わり、より一層レベルアップすることができました。その後は、新型コロナウイルス感染症の影響で強豪校との練習試合が組めない状況が続いており、とても残念な思いです。このような中でも自分たち自身で強くなるために、日々の走り込みやウェイトトレーニングなどを行っていき、一人ひとりのスキルアップを図っています。今はチーム内で切磋琢磨し合える環境を作り、全体でレベルアップできると感じています。

花園大会は三年生にとつては最後の大会なので、日々の練習に全力で取り組み絶対に花園へ出場します。そして支えてくださった保護者や関係者の方々、これまで指導してくださった指

導者や仲間、全ての方々への感謝を忘れずに戦います。応援よろしくお願いいたします。

伝統あるラグビー部で



一年生代表

沢田石 孝介

私たち一年生はプレイヤー二十名とマネジャー二名の合わせて二十二名が入部しました。入部当初は、初心者も多く練習が上手くいかなかったことや、意見の違いから言い合うこともありましたが、次の日にはまた仲良く話したりして乗り越えてきました。また、分らないことが沢山ありましたが、そんな時は先輩方が優しく丁寧に指導してくださりました。今では部活動や学校生活にも慣れ、毎日充実した日々を過ごすことができていると思います。

監督やコーチ、OBの方々の指導を受けている時など、伝統あるラグビー部の一員であるということを念頭に置き、自覚を持って行動できるようになってきました。

一年生は始めの頃は、タックルやパスの基礎練習を行いました。練習の積み重ねで少しずつ成長し、一・二・三年生に加わって行われた紅白戦で練習の成果を発揮することができました。初めての夏の二部練では辛いことや苦しいこともありましたが、みんなで助け合い絆を深めることができました。

間もなく花園予選が始まります。先輩方は花園優勝に向け、厳しい練習を乗り越えてきました。先輩方が悔いなく全て出していることができるよう、一年生も一丸となってサポートしていきます。